



毎月25日号掲載

第210回

和服と漢服

着物を表現するのに必ず「呉服」と言う言葉を使っていた。つまり、東京山喜は「呉服問屋」であり、決して「着物問屋」ではなかったのである。

一方、2015年に経済産業省が立ち上げた着物業界活性化の為に協議会は「和装振興協議会」である。更に昨年10月、上海の二つの大学で着物文化講座をさせて頂いたが、中国語で着物を表現する場合は間違いなく「和服」である。

「きもの・着物・KIMONO・呉服・和装・和服」と様々な表現があるが、「きもの」「KIMONO」の「着物」は当然ながら文字の違いで同じ物という意味し、限りなく和服に近いと思われる。

一方「呉服」は多くの場合、絹織物の小幅の反物を意味する場合が多いようだ。呉服は文字通り呉の国から来た服である。呉は三国志の魏・蜀・呉の呉の国で、その都は現在の江蘇省蘇州市の近くだ。その一帯は今も養蚕が盛んで、古くから絹織物の著名な産

呉服・和装・和服 多彩な表現方法

しかし、弊社が問屋をしていた19年前は、

和服を研究して漢服ブランド設立

中国人学生の発想に驚きと喜び

地である。

また「和装」は、着物を着た装い全般を総称している感じである。着物、帯に限定せず、インナーや着物を着る時に使う小物やコート、履物も全て含めて和装で包括できる。

中国の若者間で 漢服ブーム

そして「和服」と言う言葉に対して「漢服」を初めて意識したのは、昨年上海の大学で中国人学生さん達と交流した時である。最近中国の若者の間で、コスプレ的に漢服がブームになりつつあると聞いた。その場で漢服をネット検索すると、中国の時代劇でよく見かけるコスチュームで襟合わせ、袖、帯などが着物との共通点が多く見受けられた。この漢服の服飾文化が飛鳥時代の日本に伝わり、着物のルーツになった事は想像に難くない。

漢服を意識し出したこのタイミングで、私が理事をさせて頂いている「一般財団法人アジア・ユーラシア総合研究所」の代表・川西重忠先生から、SBI大学院の中国人学生、李佳倩(リ・カセン)さんを紹介して頂いた。李さんは(株)アイデアスプラウトという

京都のベンチャー企業で働きながらMBAコースで研究をされているが、そのテーマが「漢服の復興」だという。李さんは上司の春山社長と二人で同研究所に来られた。

李さん曰く、中国で着物市場がピークの2兆円から、43年連続して右肩下がりを続け、2800億円に凋落し、出口が見えない様に感じられる今、たす屋は、日本文化発信型着物屋を目指すことで、着物市場のダン

李さんの目標は漢服を研究して、中国人に止まらず、世界に受け入れられる新たな漢服をファッションとして復活させることだという。しかし、漢服の資料は中国にはほとんど残っていないそうである。理由の一つとして、17世紀半ばから250年近く中国を支配した清朝が満州族の王朝だったため辮髪や纏足、旗袍などの満州族の風俗を普及する一方、漢民族や他民族の服飾を禁じたこと。それに加え、清朝末期には洋服の着用が普及したため、漢服文化が途絶して350年にもなっている。

この様な発想が中国人から生まれたことに、驚きと感銘と深い喜びを感じた。1989年からたんす屋を立ち上げる10年間、中国で着物などの工場経営をしていた私は、当然ながら素材としての生糸と絹織物のコストが非常に安く、工場で働く人の人件費が当時の日本と比較にならない安さである事で、生産

この新ブランドの立ち上げに、日本の家庭に眠る「筆筒の肥やし」4億点の着物と、4億点の帯が大いに役立つと感じているが、いかがだろうか。

着物市場がピークの2兆円から、43年連続して右肩下がりを続け、2800億円に凋落し、出口が見えない様に感じられる今、たす屋は、日本文化発信型着物屋を目指すことで、着物市場のダン



女性の漢服。漢服は着物のルーツともいわれている



東京山喜 (店名・たんす屋)

中村 健一 社長

1954年9月京都市生まれ。77年カリフォルニア州立大学ロングビーチ校留学。79年慶応義塾大学卒業。同年東京山喜入社、87年取締役京都支店長、91年常務、93年社長に就任、今に至る。